

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

## 共育コラム

「バスケ+もう一つ」をイメージしながら“今”をがんばる

### 高校バスケ ウインターカップ

同日、高校バスケでは、ウインターカップ福岡県大会決勝が行われていました。女子は東海大福岡高校 vs 福岡大学若葉高校で、若葉高校が優勝しました。最終スコアは、71 対 82 でした。男子は大濠高校 vs 福岡第一高校で福岡第一高校が優勝しました。最終スコアは 60 対 69、高校バスケではロースコアです。男子はテレビ放映があり私も見ましたが、このロースコアが意味するものが、両チームのディフェンス力にあったことは一目瞭然でした。バスケットは点を取り合うゲームですし、そこに快感がありますから、どうしてもオフェンス力に目がいきます。子どもたちもシュートへの関心が高く、シュート練習はだまっていたてもできますが、自らディフェンス練習に力を注げる子はそうはいません。ここには、指導者の力が必要となってきます。今回の両チームのディフェンスは、小学生の手本にもなるすばらしいものでした。今年のオリンピックで見せた全日本のチームディフェンスもすばらしく、日本バスケのよさが、ディフェンス強化から生み出されているように思います。

男子のこの2チームは、毎年、福岡県のみならず全国のトップを争うチームで、互いの手の内を知り尽くしたうえでの闘いです。互いに作戦を練って練って子どもたちに浸透させて望んでいることでしょう。がっぴり四つに組んだこの2チームの闘いには、本当に見ごたえがあります。

### コートでプレーできる選手の陰に

一般視聴者として見る分には、本当に楽しませてもらっていますが、私たちがいつも念頭においておかなければならないのは、コートに登場するメンバーの陰に、何倍もの子どもたちがいることです。優勝した福岡第一高校バスケ部は、100人以上いると言われます。そのうちコートに登場できたのはわずか10人ほどでしょう。これを小学生にあてはめてしまうことのあやまちをおかしてはならないと思います。さらに地区予選で敗退し決勝に進めなかったたくさんチームがあり、それぞれにたくさん子どもたちがいます。そして、各段階の一つ一つの試合にドラマがあります。直方クラブOBであり、元コーチの成海君が、子どもたちに話してくれた高校バスケ部時代の「奇跡の47.6秒」(直方クラブホームページ共育コラム2020に掲載)のエピソードは、まさにその一例でしょう。子どもたち一人ひとりに、これからの進路がなければなりません。

### 自己認識力

高校生ですから、発達年齢からして、そんなことはわかったうえで“今”の自分としてバスケットをがんばっていると思いたいです。教育用語で「自己認識力」と言いますが、子どもが自分で自

分のことをしっかり認識しながら、今の自分の立ち位置を決めてがんばっていることが重要です。“今”をがんばりつつも、“次”のステップも考えイメージしながら、ということが必要です。かわる指導者（おとな）は、そこまでいっしょに考えながら、ということが必要だと思います。最終的に決めるのは子ども本人ですが、判断のために必要かつ適切な情報の獲得は、子どもだけでは限界もあり、不足分はおとなの役割として提供してあげる必要があります。また、子どもが相談を求めたときにはいっしょに考えてあげることも必要でしょう。

### **直方クラブOBも、それぞれの“今”**

そうした高校の世界に、今年もまた直方クラブのOBも入っていきます。中学3年生は、すでに部活を引退し、次の進路選択に向けた動きの真ただ中です。先日も体育館に来た折に現況を話してくれたOBがいます。自分の目で見て、耳で聞いて、自分なりにしっかり考えて判断をくだそうとしている姿に感心しながらも、私から一言だけ、「その次のイメージも…」ということをつけ加えました。本人は「大学でも…」と考えており、強い意志を感じました。OKだと思います。ただ、「バスケ+もう一つ」のイメージももちつつ、選択した進路でがんばってほしいと願います。

最近では、自分の進路についてしっかり考えながら“今”をがんばっているスポーツ選手も少なくありません。全日本ラグビーで活躍した福岡県古賀市出身の福岡堅樹選手の進路決断は有名ですね。「次は医師をめざして…」と、29歳で引退を決断し次のステージに向けて歩み始めています。

先日、私の職場に、ある市の教育委員会から仕事上のメールが届きました。担当の名前を見ると、直方クラブOBと同姓同名。まさか？と思い、必要もあったので電話連絡を入れてみると、やっぱり…。その市の職員として教育委員会に勤めていました（本人の確認をとっていないので実名は伏せておきます）。

この子は、当時キャプテンでポイントガード、バスケットはもちろんハートもよく、チームをしっかり引っ張ってくれていました。小学校卒業後もバスケットでがんばりたいとの意志が強く、中学校からバスケットの強豪中学に進学しました。途中経過をあまり聞いていないので正確ではないところもありますが、その後も、高校、大学、実業団とバスケット人生を歩んだようです。その子が、今、市の教育委員会勤務で、また私の仕事とつながってきていることにびっくりです。就職後も、地域のバスケットチームに所属して楽しんでいたそうですが、このコロナ禍で活動ができなくなったことがきっかけで、そのチームも解散し、今はバスケットはしていないとのことでした。

このほかにも、多くのOBが、いろいろなところでがんばっていることと思います。今も体育館にちよくちよく顔をだしてくれて、年々成長し、たのもしくなっていく姿を見せてくれる子もいます。OB一人ひとりの大切な“今”があります。

長くやっていると、子どもの成長する過程を垣間見ることができたり、成人し社会人（おとな）として再会でき、その子から学び今の子どもの指導に返すことができたりします。出会い、再会、子どもの成長は、私が長くクラブ指導にかかわっている原動力にもなっています。

小学生の子どもたち、これから長い人生です。“今”をがんばることは絶対的に大切なことですが、「バスケ+もう一つ」をイメージしながら、“今”をがんばってほしいし、私たちおとなはそ

こを見てサポートしていかなければならないと思っています。